

和光市公共施設白書について

平成27年6月4日(木)

和光市総務部総務課

公共施設等の老朽化は加速度的に進行

■高度成長期に急速に整備が進んだ公共施設等は、約40～50年以上が経過し、耐用年数を迎えるものが増えてきた。



(出典)内閣府「社会資本ストックの推計」

問われる自治体の安全管理

■公共施設の老朽化が、大きな事故につながる可能性が露呈してきている。九段会館の天井崩落事故など、人命に関わる事故も発生しており、施設の老朽化が進む中、日常の点検や修繕等による、適正な維持保全の重要性がますます高まってきている。



写真左：屋内プールの天井脱落（静岡県富士市）



写真右：音楽ホールの天井脱落（神奈川県川崎市）
（出典）国土交通省資料

3

インフラを含む公共施設の全体の見通しが必要

■建物だけではなく、橋やトンネル、下水道などのインフラ老朽化も大きな課題。更新にかかる費用は建物よりも大きく、インフラを含む公共施設全体を見通してマネジメントの方向性を考えていくことが重要である。



下水道管の老朽化に伴う道路の陥没（出典）東京都



茨城県東部の鹿行大橋の落橋
（出典）東京新聞2013年2月1日

4

なぜ公共施設マネジメントが必要か？

■ ～高度成長期の全国的な人口増加期に大量建設された公共施設や道路、橋梁、上下水道などの**維持更新投資の集中**

厳しい財政状況にあるなか、施設の建替え費用を確保するのが難しい

■ 全国的な人口減少、高齢化などの人口構成の変化、市町村合併などによる公共施設の**需要と供給のバランスの変化**

人口は減っているのに施設数は変わらず。近隣に同じような用途の施設が多数立地

■ 建築基準法改正前に建設した建物の耐震化、バリアフリー化など、**施設の高機能化需要の高まり**

耐震改修等の未実施の施設も多い

リスクに備えた公共施設等の改革が必要！

5

ここが重要！

公共施設をどうマネジメントするかが大きな課題

<公共施設の実態>
公共施設の**老朽化**、施設に求められる**機能の変化等**による更新への要望等

<地方自治体を取り巻く課題>

- 人口減少と高齢者の増加
- 税収減、福祉関連支出の増加
- 居住地域の変化と都市経営(まちづくり)への対応

白書作成により現況を的確に把握した後

単なる実態把握にとどまらず、**マネジメントの視点を持った計画の策定が必要**

<今後の公共施設のあり方>

- 施設の需要規模や求められる機能の変化への対応
- 施設運営面での工夫
- 自治体財政と連動した管理
- 庁内横断的な統一的な考え方に基づく総合的な管理システムの必要性

- **公共施設マネジメント**: 地方公共団体等が保有し、又は借り上げている全公共施設を、自治体経営の視点から総合的かつ統括的に企画、管理及び利活用する仕組み

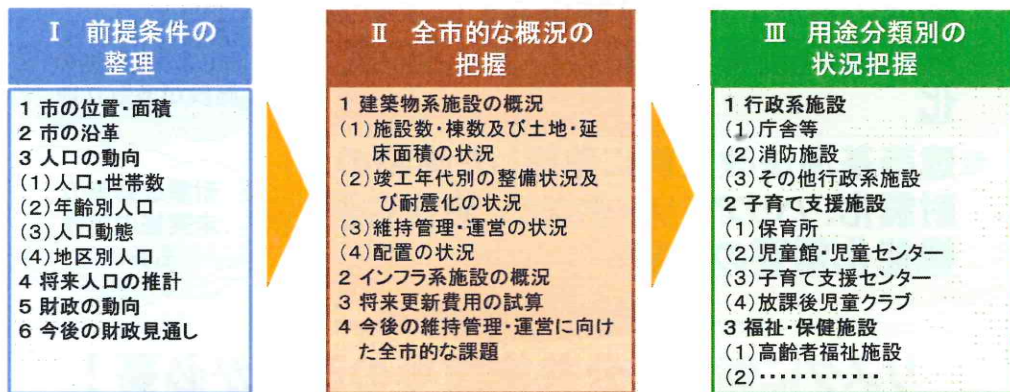
6

ここが重要!

公共施設白書作成の狙い

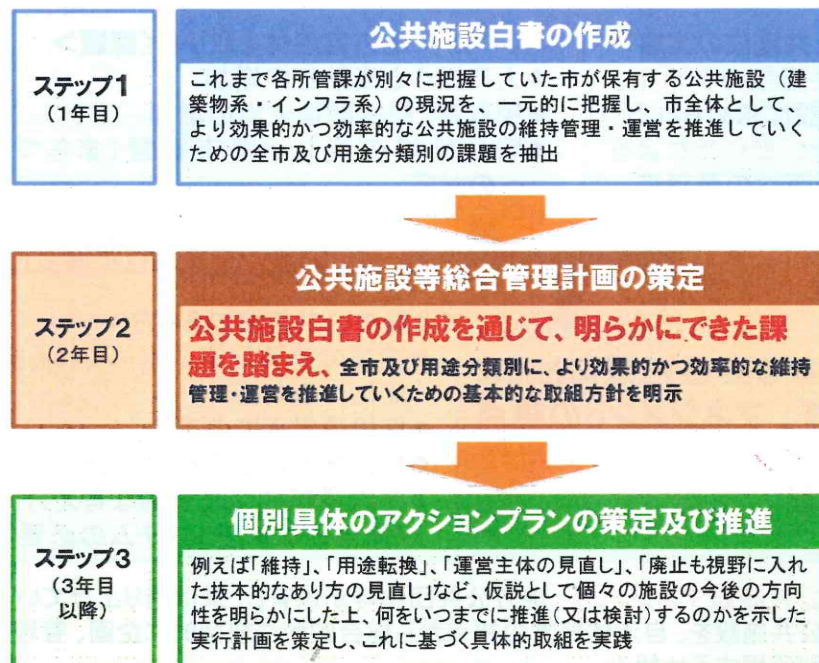
これまで各所管課が別々に把握していた市が保有する公共施設（建築物系・インフラ系）の現況を、一元的に把握し、市全体として、より効果的かつ効率的な公共施設の維持管理・運営を推進していくための全市及び用途分類別の課題を抽出

<公共施設白書の標準的な目次構成>



7

公共施設マネジメントの基本的な推進イメージ



8